

HIROSHI TANIUCHI

PLUS ONE WORD TO THE WORLD

EDITED BY MARIKO SUMIKURA

TRANSLATED BY STIJN CARON

Japan
Universal
Poets
Association

JUNPA BOOKS

Special thanks are due to Struga
Poetry Evenings and UNESCO for the
award “Bridges of Struga” and to
JUNPA for financing the publication of this book.

Hiroshi Taniuchi

目 次

願望	1
車輪から	2
カタストロフィー	3
十年前の十年後	6
サボテンの遺言	8
どしゃ降りの森の中で	10
わたしは天使になる	11
ここから根を伸ばせばいい	13
遠雷	14
落ちない稲妻	16
太陽のラブソディ	17
真夜中の途中	18
月のみそぎ	19

熱帯夜	21
湖はわたしを映さないで	23
月の祈祷	24
星の祈祷	25
火事に遭った樹	26
群集の夢	28
三角の涙	32
逢瀬	33
ブルーメモリー	34
鏡界線	36
便箋	37
ペン先の行方	39
無心	41
世界に言葉を一つ加えて	43

INDEX

Desire	<i>45</i>
The Wheel of Fortune	<i>46</i>
Catastrophe	<i>47</i>
10 Years Later from 10 Years Before	<i>50</i>
Last Words of a Cactus	<i>52</i>
Forest in a Big Downpour	<i>54</i>
I Become an Angel	<i>55</i>
To Stretch My Roots From Here Is Just Fine	<i>57</i>
Distant Thunder	<i>58</i>
Lightning in Mid-Air	<i>60</i>
Rhapsody for the Sun	<i>61</i>
Halfway through the Night	<i>62</i>
Lustration of Luna	<i>63</i>

Sultry Night	65
The Lake Doesn't Reflect Me	66
The Moon's Prayer	67
Praying Stars	68
The Tree Which Met Fire	69
Dream in a Colony	71
Triangular Tears	75
Rendezvous	76
Blue Memory	77
Mirrored Border	79
Writing Paper	80
Whereabouts of the Pen	82
Begging	84
Plus One Word to the World	86

願望

すべての願いが叶うという世界で

他人と

同じ願いだと叶わなくなる世界なら

わたしは

願いを掲げることが止めるでしょう

少なくとも

誰かの願いと一緒になければ、意味がないのです

願う意味がないのです

車輪から

車輪の上から見た世界は
雄大で眩しくて
どこまでも広がる場所まで、自分も行けそうな
そんな、気がした
そんな、気がした、夜、
真上の月が照らしているのはわたしであって
わたしを含む世界の全体だった

車輪の下から覗いた世界は
掌よりも小さくて
どこまでも広がるには不自由で、どこにも行けないことに
真実だと、気づいた、
真実だと、気づいた、夜、
真上の月が照らしているのはわたしではなく
わたしを含む世界の断片だった

カタストロフィー

眠りの数だけ目覚めがあるなら

昨日の数だけ明日がある

昼の数だけ夜があるなら

日向の数だけ暗闇がある

名前の数だけ物質があるなら

星の数だけ宇宙がある

言葉の数だけ思想があるなら

嘘の数だけ真実がある

別れの数だけ出逢いがあるなら

悲しみの数だけ喜びがある

成功の数だけ失敗があるなら

挑戦の数だけ挫折がある

終わりの数だけ始まりがあるなら
現実の数だけ夢がある

鍵の数だけ扉があるなら
男の数だけ女がいる

命の数だけ歴史があるなら
人間の数だけ物語がある

死者の数だけ生者がいるなら
忘却の数だけ存在がある

薬の数だけ傷口があるなら
医者の数だけ病気がある

味方の数だけ敵がいるなら
武器の数だけ紛争がある

政治家の数だけ国家があるなら

詩人の数だけ世界がある

……そんな自由なシンメトリーの世界

壊れたのは、わたしが愛してしまったから